

氏名	青景圭樹
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 3063 号
学位授与の日付	平成18年3月24日
学位授与の要件	医学研究科外科系外科学(二)専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	A canine experimental study to assess the potential of unilateral double lobar lung transplantation (新しい生体肺葉移植手技である片側二葉肺移植の潜在性を評価する実験的研究)
論文審査委員	教授 佐野俊二 教授 氏家良人 助教授 五藤恵次

学位論文内容の要旨

従来の生体肺移植は移植肺容量に限りがあり、体格の小さな患者が対象である。以前より体格の大きな患者に適応できる片側二葉肺移植(UDLLT)を開発してきた。今回、慢性期の気管支治癒、肺機能を評価した。ドナーより右の中下縦隔葉と左の下葉を取り出し、右肺全摘したレシピエントに右中下縦隔葉グラフトはそのままの位置に、左下葉グラフトは反転させ、右上葉の位置に移植した。術後 1、3 週間目に気管支吻合部と左主肺動脈閉塞下での血行動態・肺機能を評価。3 週間目には肺動脈造影を施行。14 頭すべての犬は移植手術に耐えたが、肺動脈捻転(21%)、肺静脈血栓症(29%)が右上葉肺に生じた。これらの合併症は移植を重ねるにつれ減少した。3 週間生存した7 頭はすべて良好な肺機能、気管支治癒を示した。非解剖学的に位置するグラフトに高頻度で合併症が生じたが、移植手技の向上により合併症は減少した。UDLLT は、正しく行えば長期的に十分な移植肺機能と気管支治癒が得られ、体格の大きな肺疾患患者に対する肺移植の新しい選択肢となりうる。

論文審査結果の要旨

本研究は体格の大きな患者に適応できる片側二葉肺移植(UDLLT)の開発に関する論文である。従来の生体肺移植は移植肺容量に限りがあり、体格の小さな患者が対象であった。UDLLT に際しては肺動脈捻転、肺静脈血栓症などの問題があるが、経験を積むにしたがい、これら合併症は減少した。

UDLLT は正しく行えば長期的に十分な移植肺機能と気管支治癒が得られ、体格の大きな肺疾患患者に対する肺移植の新しい選択肢となり得ることを示した初めての論文であり、価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。